

国語科事例

題材名 グループ音読に挑戦しよう

～場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する～

第2学年C読むこと(エ・オ)  
言語活動例C-I

1 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。  
〔知識及び技能〕(1)キ
- (2) 文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。  
〔知識及び技能〕(1)カ
- (3) 「お手紙」を読んで、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。  
〔思考力・判断力・表現力等Cエ〕
- (4) 「お手紙」の文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。  
〔思考力・判断力・表現力等Cオ〕
- (5) すすんで根拠になる文を探し、学習の見通しをもって、音読しようとしている。  
〔主体的に学習に取り組む態度〕

2 教材名

「お手紙」(光村図書2年)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 ((1)キ)	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。[Cエ]	①すすんで根拠になる文を探し、学習の見通しをもって、音読しようとしている。
②文の中における主語と述語の関係に気付いている。 ((1)カ)	②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。[Cオ]	

4 指導計画(9時/全39時間)

次	時	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法
一	1	○課題を設定し、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">グループ音読に挑戦しよう</div> ・音読するためには、どのようなことに注意すればよいか考える。	・最終的な発表形態を示し、そのために必要な活動のイメージをもたせる。  ・音読の工夫を説明する際には、根拠を明らかにさせる。(状況、言葉、心情等)	・音読を行うことに関心をもち、学習の見通しをもっている。 (観察)  ・音読する際に注意する点(ノート記述)
二	2	○第1の場面を音読し、登場人物の心情について考える。 ・がまくんの状況と心情について考える。	・がまくんが、どのような状況におかれているのか考えさせる。 ・登場人物ごとの会話文にマーカーを引かせる。	・登場人物の状況把握(ノート記述) ・交流による感想(ノート記述)
	3	○第2の場面を音読し、登場人物の心情について考える。	・役割を代えながら、練習をさせる。	・音読練習時の様子(観察)
	4	・読みながら、考えたことや疑問などを共有する。		・音読の工夫とその理由(ノート記述)

三	5	○第3の場面の音読を通して、登場人物の行動や様子について確認する。	・これまでの学習内容について振り返る。	・音読の練習の様子(観察)
	6	○音読の録音を通して、それぞれの工夫について考える。	・発表したグループに、どのように工夫したのか説明させる。	・読み方の工夫と説明(ノート記述)
	7	○録音を振り返る。 ・前時に録音したいくつかのグループを聞く。	・なぜそのように読み方が変わったのか、叙述の読み取りとともに考えさせる。	・グループ録音の様子(観察) ・自分の考えの変容(ノート記述)
四	8	○最後の場面まで音読する。 ・自分たちの力で「とてもいいお手紙だ。」まで音読することを知る。	・これまでの学習を生かして、自分たちの力で音読を録音することを伝える。 ・読んでみたいと思う言葉について、考えたことをノートに記述させる。	・グループで検討している様子(観察)
	9	○学習を振り返る。 ・これまでの録音した内容を振り返り、読み方や考え方がどのように変わったかについて振り返る。 ・物語を読むときに、どうすれば楽しくなるかについて考える。	・録音した内容にあまり変わりがなくても、どのように読もうとしたのかに変わりがあることに気付かせる。 ・読み方の違いを再確認させ、ノートに記述させる ・学習の振り返りをノートに記述させる。	・録音された記録(タブレット型PC) ・自分の読み方の変容について(ノート記述) ・物語を読むときの気を付けたいこと(ノート記述)

### POINT 1 ICTの活用 音読を録音する

児童が取り組みたくなる言語活動を工夫するために、タブレット型PCを用いて音読を録音する「アフレコに挑戦しよう」という単元を設定した。ただ音読するのではなく、挿絵とともに音読することを通して、場面設定や人物設定の理解だけでなく、登場人物の心情について考えることをねらった。

児童は、自分の音読を再生して聞くことに興味をもっただけでなく、「この読み方がよかった」「がまくんはどういうつもりで言ったのだろう」などの感想を交流するなど、振り返りの場面でも効果的であった。

また、録音する前に、どのような点について工夫して音読するのかを述べさせたので、教師が一人一人の学習の様子を把握することにも役立った。



### POINT 2 学習評価につなげるノート記述

主に「思考・判断・表現」の評価材料とするために、活動のまとめごとに「がまくんに手紙を書いたことを、かえるくんはなぜ話してしまったのか」など、学習課題を確認した上で、ノートに考えを記述させた。その際、「なぜそのように考えたのか」という理由もできるだけ添えるように指示をした。

児童のノートの記述について、評価記録を積み上げ、その変容を見取るとともに、支援が必要な児童の様子を確認したり、発問などの授業の改善に生かしたりするなどした。児童は、記録を書きためることで、自分がどのように考えたのかという変容にも気付いていた。

